

努力点推進計画

1 主題 一人一人が考えを伝え合うことができる児童の育成

2 主題について

本校では、「伝え合う力の育成」に重点を置き指導を行う。「伝え合う力」とは、「話す力」「聞く力」「かく力」の言語の総合的な運用能力と捉え、自分の考えを分かりやすく友達に伝え、相手の考えを正しく理解し、友達の考えを取り入れて話すことができるよう、段階的に指導を行う。そうすることにより、「話す力」「聞く力」「かく力」を着実に高めることができ、学校教育全般や家庭生活、そして地域社会の中でも、「使える力」として機能し、生活をよりよくすることができると思える。

この「伝える力」を児童に身に付けさせていくために、2年間を通して、国語科の中で「話す力」「聞く力」「かく力」を高め、3年目には、様々な教科の中で一人一人が考えを伝え合うことができるようにする。1年目の令和4年度は、国語科における言語活動の中の「話す」「かく」活動を中心に授業研究を行った。また、「話す」「かく」活動の中でも、各学年に応じた課題解決学習の場面で、課題に対する自分の考えを明確にして、友達に伝える活動を行っていくことで、相手に分かりやすく伝えようとする態度や技能を高めることができた。

2年目の令和5年度は、国語科における言語活動の中の「聞く」活動を中心に授業研究を行う。相手の思いや考えを理解することができるように聞く態度や技能を高めることで、「聞く力」を育成し、国語科における「伝え合う力」を身に付けさせる。

3 推進の方法

(1) 研究の方法

① 「聞く」ことの系統性を生かした授業研究

学年	特別支援	低学年	中学年	高学年
目標	話の内容を聞こうと意識し、興味をもって聞くことができる	大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞くことができる	話の中心や組み立てを捉えながら聞き、質問したり、感想を述べたりすることができる	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意図と比べるなどしてまとめることができる

② 常時実践による伝え合う場の設定

朝の会や帰りの会などで、一人一人が自分の思いや考えなどを表現し合う場を設定し、日々の実践から「話す力」「聞く力」の向上を図る。

③ 主題に迫るために明らかにしたいこと

- 話し手の思いや考えを聞くことに対する目的意識や必要性を意識させる指導構成の工夫
- 話し手の思いや考えを聞くことの楽しさを味わわせる指導構成の工夫
- 話し手の思いや考えを正確に聞く指導構成の工夫
- 話し手の思いや考えを聞くことの良いところを実感できる指導構成の工夫

(2) 研究の進め方

① 実態把握(年度当初)

授業や日常の生活の中での児童の様子を観察したり、実態調査を行ったりしながら学級や児童の実態を把握する。

② 研究授業について

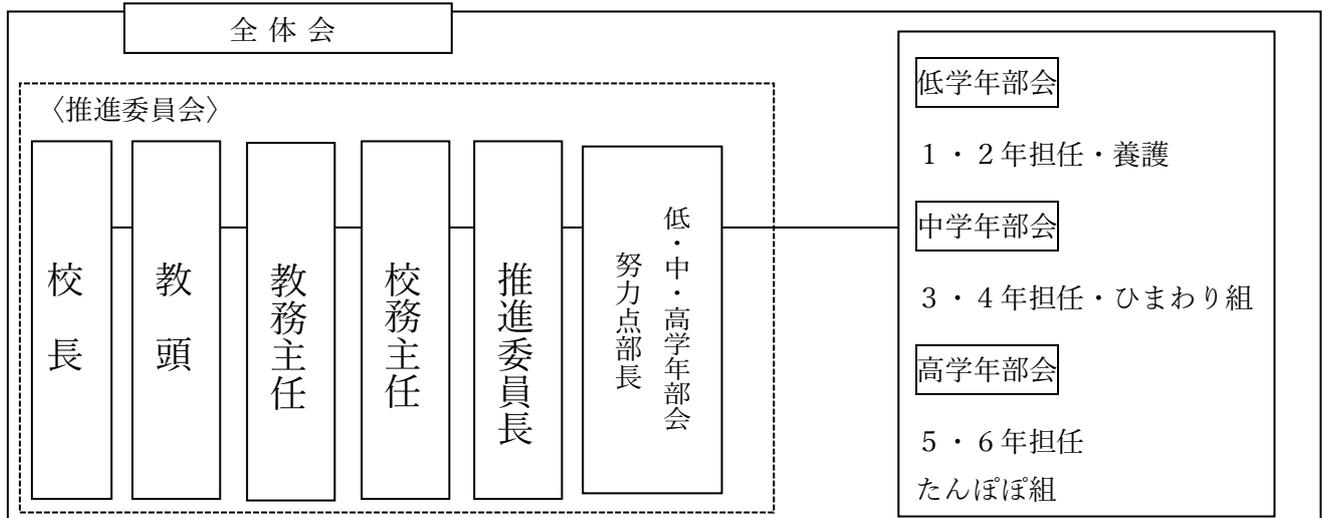
国語科の授業で指導案(A4:1枚程度)を作る。一人一実践を公開する指導案は低学年部会・中学年部会・高学年部会の各部会で検討(事前検討会)し、1週間前までに決済を受け、前日までに配付する。事前検討会(実践の直前の会のみ)は教務主任もしくは、努力点推進委員長も含め検討をする。また、学年で同じ授業の指導案を作り、改善していく。研究授業をできるだけ多く参観し、事後検討会で意見交換する。成績処理の時期や出張、行事等との重なりを極力避ける。日程については、校長、教頭、教務主任、努力点推進委員に相談のうえ決める。

③ 実践の成果を報告(形式は次頁参照)

実践の成果を1月26日までに最終報告書にまとめる(決裁は不要)。その際、学年部会の中で誤脱の確認を行う。まとめたものは、50部努力点推進委員長へ提出する。また、保護者に伝えるために、学期に1度、学年だよりにも実践内容を掲載する。

(3) 努力点研究推進組織図と年間計画

① 組織図



② 年間計画

月	研究の主な内容
3	○ 努力点研究主題の検討及び決定、推進のための組織づくり(推進委員会)
4	○ 努力点研究・部会運営について提案(職員会議)
4・5	○ 指導案を検討・実態調査(学年研究会)
12まで	○ 授業実践 ○ 学年だよりでの成果の周知
1	○ 努力点最終報告書の作成 …1月26日(金)まで ○ 研究のまとめと発表(最終報告会)
2	○ 1年間の反省と次年度に向けての方向性の検討(推進委員会)